

2025 年 3 月期決算に関する F A Q

※ ここでは、当決算について想定される質問と回答を参考として掲載しています。ご不明点等ございましたら、I R 室（03-3349-2526）までお問い合わせください。

**Q1. 主な事業の足元の状況は。**

当社鉄道事業	改札通過人員【4 月 1 日～20 日】 定期、定期外とも前期並みで推移 ※ 前期同日比
小田急百貨店	売上高【4 月 1 日～20 日】 新宿店 106%程度、町田店・ふじさわ 前期並みで推移 ※ 前期同日比
シティホテル	客室稼働率【4 月 1 日～20 日】 ホテルセンチュリーサザンタワー 95.0%
箱根エリア	箱根湯本駅改札通過人員【4 月 20 日～4 月 26 日】 平日 115%程度、土休日 109%程度で推移 ※ 前期同週比
	箱根リゾートホテルの客室稼働率【4 月 1 日～20 日】 80～90%程度で推移 ※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、はつはな

**Q2. 中期経営計画および決算説明資料における「観光収益」とはどのようなものか。**

- ・ 当社グループ全体の観光に関する営業収益および免税取扱高を合算し、「観光収益」と定義している。足元 2024 年度では交通業（箱根・湘南エリアに関する定期外収入や特急料金収入等）が 5 割程度、ホテル業が 2 割程度であり、小売やリゾート人材派遣業等も含まれている。
- ・ 2025 年度の「観光収益」は、交通業が好調であることなどにより 812 億円（対前期 +3.0%）、うちインバウンドは 246 億円（同+1.5%）となる見込みである。
- ・ 旺盛なインバウンド需要等を背景に、「観光収益」は 2030 年度に 1,200 億円、うちインバウンドは 450 億円を目指している。

観光収益 (単位：億円)		
		うちインバウンド
2023 年度 (実績)	718	194
2024 年度 (実績)	789	242
2025 年度 (予想)	812	246
2030 年度 (計画)	1,200	450

### Q3. 観光需要（特にインバウンド）の取込施策や現状は。

- ・ 国内外を問わず観光客を取り込むポテンシャルがある新宿を日本一のインバウンド観光ハブにすることを目指し、箱根や湘南を含めて宿泊・買い物等の需要を積極的に取り込み、閑散期の底上げにも取り組む。
- ・ また、新宿と箱根、新宿と湘南といった拠点間での移動需要を取り込むことを目指し、2028 年度に新型の特急ロマンスカーの運行開始を予定している。
- ・ 企画券の販売においては、当社の多言語ホームページや公式 SNS のリニューアル、海外 OTA（インターネット上のみで取引を行う旅行会社）との連携等を推進し、旺盛なインバウンド需要を取り込んでいく。
- ・ 当社グループの交通サービスと箱根エリアのホテルをセットにしたパッケージ商品の販売強化に加え、新たにインバウンド向け着地型ツアーの販売を予定しており、顧客単価の向上を図っていく。

(参考) 中期経営計画（2025～2026 年度）

#### 【箱根エリア】

- ・ 2024 年度の箱根フリーパスの販売枚数は、過去最高であった 2018 年度比△9.7%にとどまっているものの、前期比+6.2%であり、増加傾向を維持している。
- ・ 特に、外国人向け販売枚数は 2018 年度比+32.1%であり、過去最高を更新した。国別では中国、アメリカ、韓国が TOP3 を占めた。
- ・ 旺盛なインバウンド需要を取り込むことなどにより、2030 年度には販売枚数 100 万枚を目指している。

箱根フリーパス (単位：千枚)		販売枚数	
		うち外国人	割合
2018 年度	<b>959</b>	270	28.2%
2023 年度	815	296	36.3%
2024 年度	866	<b>357</b>	<b>41.2%</b>

※ **太字**：過去最高

- ・ 箱根海賊船「ビクトリー」特別船室のリニューアル<sup>※1</sup> や箱根ロープウェイ大涌谷駅の新展望エリア「ちきゅうの谷」<sup>※2</sup> 等が完成し、順次供用開始している。
- ・ ホテルについても、インバウンド需要を着実に取り込み、客室単価も上昇しているほか、2025 年 12 月には旧「箱根レイクホテル」をリニューアルした「RETONA HAKONE」（リトナ ハコネ）のオープン<sup>※3</sup> を予定している。

（参考）ニュースリリース

※1 [箱根海賊船 「ビクトリー」 特別船室のリニューアル完了](#) (2025/4/18)

※2 [4 月 25 日 大涌谷駅に新展望エリア 「ちきゅうの谷」をオープン](#) (2025/3/28)

※3 [愛犬特化型ホテル 「RETONA HAKONE」 の開業日決定](#) (2025/4/14)

#### Q4. 小田急電鉄 鉄道事業におけるホームドア設置の進捗状況は。

- ・ バリアフリー料金制度を活用し、2032 年度までに新宿から本厚木までの全駅と中央林間、大和、藤沢への設置を進めており、2025 年度は新たに 5 駅で供用開始する見込みである。
- ・ それ以外の駅についても、転落事故の発生状況、視覚障害者の利用状況や整備要望、ホームの混雑状況等を踏まえ、整備の必要性を検討していく。

（参考）ホームドア整備計画

時期	2024 年度末(実績)	2025 年度末 (計画)	2032 年度末 (計画)
	14 駅 44 番線	19 駅 54 番線	37 駅 107 番線
箇所	新宿（特急ホーム除く）、 代々木八幡、代々木上原、 東北沢、下北沢、世田谷代田、 梅ヶ丘、登戸、町田、 相模大野、海老名、本厚木、 中央林間、大和	豪徳寺※、千歳船橋、 祖師ヶ谷大蔵、喜多見、狛江	左記以外の新宿～本厚木 全駅、 藤沢

※ 2025/4/10 供用開始

#### Q5. 小田急電鉄 鉄道事業における 2025 年度の輸送人員の前提は。

- ・ 2025 年度の輸送人員は、前期比で +0.5%（定期 +0.1%、定期外 +1.0%）と見込んでいる。
- ・ 通勤・外出機会の増加により、引き続き緩やかな回復が続くが、テレワーク等の一定の定着により、コロナ前の水準までは戻らないと想定している。
- ・ 鉄道需要の創出に向け、箱根・湘南への観光輸送や、子育て層を中心とするお出かけ機会の創出を促進していく。

#### Q6. グループ各社の運賃改定の状況は。

- ・ 2023 年度以降に行った運賃改定の状況は下表の通りとなっている。
- ・ なお、2022 年度以前に鉄道業やその他（タクシー）においても運賃改定等を既に実施している。
- ・ 引き続き、持続可能な事業運営体制の構築を図る中で、適切な時期での運賃改定を検討していく。

（参考）グループ各社の運賃改定の状況

会社名	概算影響額 <sup>※1</sup> （億円）		実施日
	2024 年度 （実績）	2025 年度 （予想）	
小田急バス（川崎市内）	0.7	0.7	2023 年 5 月 15 日
立川バス	2.3	2.0	11 月 25 日
東海バス	2.5	2.5	12 月 1 日
小田急バス（京浜ブロック） <sup>※2</sup>	8.1	9.8	2024 年 6 月 1 日
江ノ電バス	軽微	1.2	2025 年 3 月 15 日
小田急ハイウェイバス（箱根線） <sup>※3</sup>	—	0.6	4 月 1 日

※1 影響額は、運賃改定を実施しなかった場合との比較

※2 東京都区内・川崎横浜市内の一部

※3 2023 年 4 月 1 日にも実施済

#### Q7. 不動産分譲業の内訳は。

- ・ 不動産分譲業は、投資開発・販売・買取再販・その他に分類している。

##### 〈投資開発〉

- ・ 賃貸レジデンス、オフィス、物流施設を中心とする収益不動産を開発し、投資家に売却していく事業。
- ・ 2024 年度は 3 件を売却したほか、2025 年度以降も年間数件を売却していく計画である。

##### 〈買取再販〉

- ・ 良質な中古住宅等を仕入れ、大規模リフォームを実施し、高品質なリノベーション住宅として再販売する事業。
- ・ 2024 年度は 13 件を計上したほか、2025 年度以降も年間 15~20 件ほどを計上していく計画である。

**Q8. 不動産分譲業（販売）における 2025 年度以降の供給予定物件の仕入状況は。**

- ・ 2026 年度供給予定分までの仕入れはほぼ完了しており、2027 年度供給予定分についても 8 割以上完了している。
- ・ 仕入価格は上昇傾向にあるが、市況を見定めながら、引き続き強い需要が見込める都心・駅至近エリアを中心に仕入れを進めていく計画である。

**Q9. 各ホテルの 5 月以降の予約状況は。**

〈シティホテル〉

- ・ 客室稼働率は、5 月、6 月ともに 90%程度を想定している。
- ・ 客室単価は、2024 年度第 4 四半期と同程度以上の高水準で推移することが見込まれる。

〈箱根リゾートホテル※〉

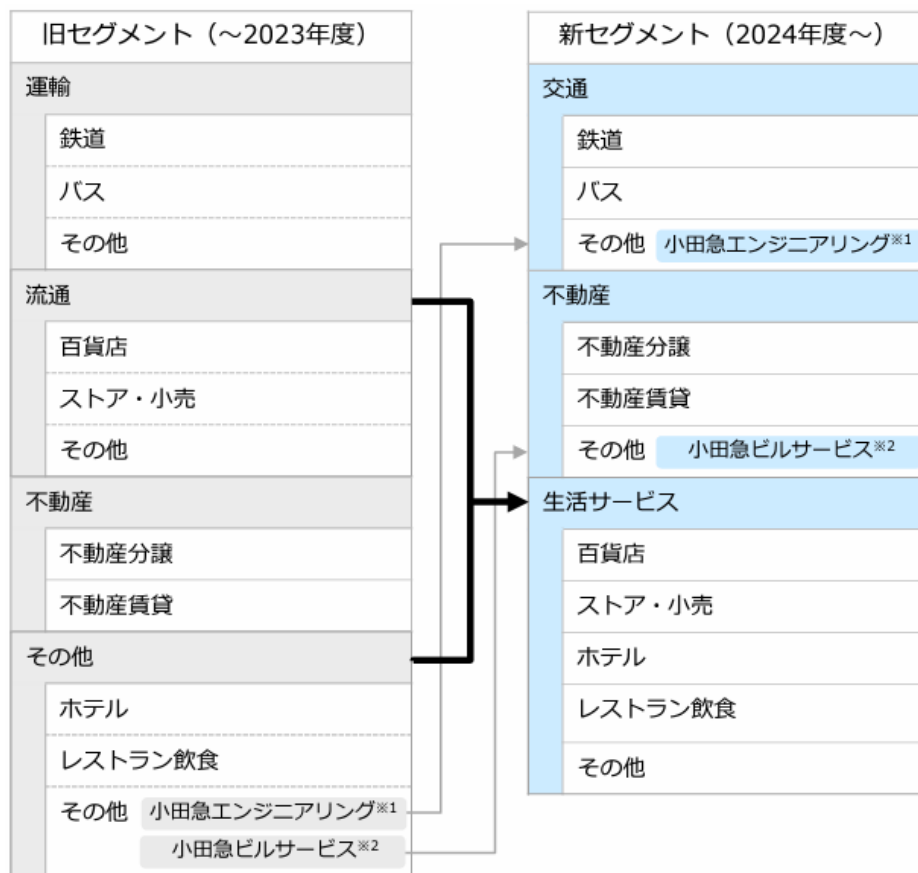
- ・ 客室稼働率は、5 月で 70～80%台後半、6 月は 70%程度と想定している。
- ・ 客室単価は、GWを含む 5 月は上昇傾向となるが、6 月になると落ち着き、2024 年度第 4 四半期と同程度で推移する見込みである。
- ・ 箱根ハイランドホテルは、5 月 7 日以降、リニューアルに伴い全館長期休館中である。

※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、はつはな

# Q10. セグメント変更の内容は。【再掲】

- ・ 経営ビジョンにおける連結財務目標を踏まえ、2024 年度期首よりセグメントを変更した（名称含む）。
- ・ 旧セグメントの「流通」「その他」を「生活サービス」に統合したほか、一部連結子会社のセグメントを見直した。
- ・ 公表資料では 2023 年度の実績を変更後のセグメントに組み替えている。

（参考）セグメント変更の概要図

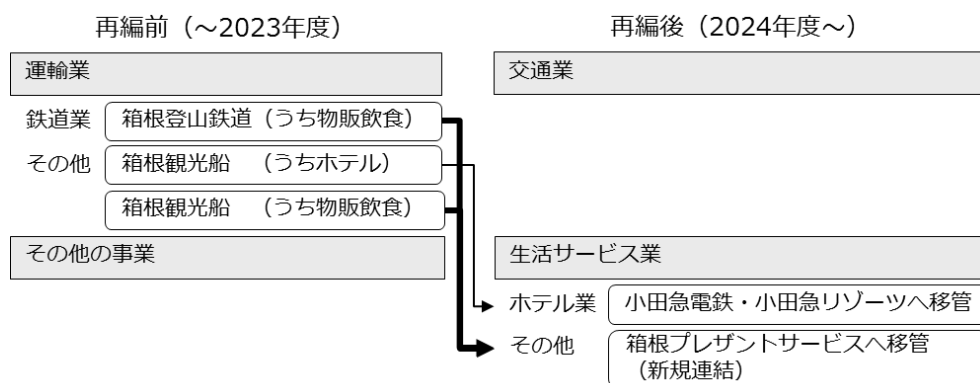


※1 鉄道メンテナンス業 ※2 ビル管理・メンテナンス業

### Q11. 箱根グループ各社の再編はどのようなものか。業績に与える影響は。【再掲】

- ・ 箱根エリアにおいて登山電車やロープウェイ・観光船等の交通業や観光施設等を運営する小田急箱根グループは、2024年4月1日付で組織再編（合併・事業分割）を実施した。
- ・ これに伴い、箱根プレゼントサービスを新規連結したほか、一部事業のセグメントを移管している。
- ・ 本再編を契機に、効率的かつコンパクトな経営体制の構築を目指して組織・コストの最適化を進めるほか、創出された人的・財務的余力を箱根エリアの魅力向上施策等への確に投下していくことで、グループ業績の持続的な成長・拡大を図っていく。

#### （参考 1）再編に伴う事業移管



#### （参考 2）2024/1/24 小田急箱根ニュースリリース

[小田急箱根グループの組織再編に関するお知らせ](#)

### 注意事項

本資料に記載されている、計画、見通し、戦略のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しであり、これらは公表時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

したがって、実際の業績は経済情勢等の変化によって業績見通しとは異なる可能性があります。

以 上